



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 264
March
2015

トピックス

国際会議への参加

↑ UNSPIDER地域支援事務所 (RSO) 会合

↑ 国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会における日本国主催のセミナー及びレセプション

ADRC客員研究員レポート

↑ サファラリエフ・ルスタム (アゼルバイジャン)

↑ ロティ・イシ (ブータン)

お知らせ

アジア防災会議2015が開催されました (速報)

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2015

●国際会議への参加

UNSPIDER地域支援事務所 (RSO) 会合

アジア防災センター (ADRC) はウィーン (オーストリア) において開催された国連宇宙平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会第52会期にあわせて開催された第6回UNSPIDER RSO (地域支援事務所) 会合に参加しました。

2月5日と6日の二日間に開催されたUNSPIDER RSO会合では、世界各地の地域支援事務所から30名以上が集まりました。同会議では、以下のサブテーマで積極的な討論が実施されました。

- ① 2014年の活動報告
- ② 2015年の活動計画
- ③ UNSPIDER作成のブックレットおよびポータルサイトの紹介
- ④ 途上国への技術指導のあり方や衛星利用の課題に関する議論
- ⑤ 途上国への技術指導についての優良事例の紹介
- ⑥ 津波、干ばつ、洪水等のワーキンググループからの活動状況の報告とそれに対する議論

ADRCはUNSPIDER RSO会合において、2014年におけるセンチネルアジアの活動実績および2015年における活動予定を発表するとともに、事務局および他のRSOとの意見交換を行いました。



国連宇宙空間平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会における日本国主催のセミナー及びレセプション

ADRCはウィーン (オーストリア) において開催された国連宇宙平和利用委員会 (COPUOS) 科学技術小委員会第52会期における日本国主催のセミナー及びレセプションに参加しました。開催されたセミナーは2月9日午前のCOPUOSセッション終了後に同じ会場で実施され、[災害リスク軽減における宇宙技術が果たす役割]をテーマにADRCの他に、4つの機関 (国連宇宙局、地球観測に関する政府間会合、フィリピン火山地震研究所、インド宇宙研究機関) による発表とその後の質疑応答が行われました。ADRCは宇宙技術が自然災害被害を軽減、予防する取組であるセンチネルアジアの実績および課題について発表しました。そのほか、衛星画像を利用して作成された洪水や火山のハザードマップの事例、今年の3月に開催される世界防災会議での宇宙技術の利活用に向けての提言等の発表が実施されました。

●ADRC客員研究員レポート

サファラリエフ・ルスタム (アゼルバイジャン)

続き

はじめまして。私はアゼルバイジャンから来ました、サファラリエフ・ルスタムと申します。私は、アゼルバイジャンにおいて非常事態省（MES）の危機管理センター（CMC）というところで副センター長をしています。私が所属する非常事態省は、2005年に設立されました。その中にあるCMCは、国内の他の防災関連機関と連携して、緊急コールセンターとしての機能や、災害統計データの解析など、様々な業務の対応をしています。具体的に申しますと、例えば、緊急時における救助活動のための中心的機能として役割、関係機関へ被害情報などの集約、整理、提供などを行います。また平時においては、防災活動のための、中央および地方政府機関が介する意見交換の場の設置なども行っています。



ここで、前述しました“112-ホットライン”について補足説明します。この“112-ホットライン”は、CMCの主要業務の一つで、自然災害、交通事故、火災、水難事故など様々な緊急時において、救助要請を受けて対応する機能を果たしています。このような役割を持つCMCにおいて、私自身は全部局との調整役として、副センター長の任務を行っています。

地理的には、アゼルバイジャンは広大な面積を有していて、周辺国と比較しても最も災害が多い国の一つです。特に、石油やガス開発に伴う工業の発展により、自然災害から被害を受ける可能性と危険性は年々増加しています。アゼルバイジャン自体は、洪水や地滑りのような多くの自然災害の影響が危惧されています。そこで、防災分野における国際機関との連携、防災活動に対する積極的な取り組みなどが、これまで多く実施されてきました。

日本はこれまで様々な自然災害を経験し、多くの防災対策が講じられています。私は、過去災害を数多く経験した、兵庫県における災害管理システムについて学びたいと思います。今回機会をいただいた、ADRCの客員研究員としまして、日本の自治体間における最新の防災対策（緊急時や予防時などの対応）を学ぶことができる大変貴重な機会だと思えます。

最後に、今回このような機会を提供してくれた、ADRCの職員のかたに、深い感謝の意を表したいと思います。

ロティ・イシ（ブータン）

はじめまして。私はブータンから来ました、ロティ・イシと申します。どうぞイシと呼んでください。私の国ブータンは、インドと中国に囲まれた人口70万人の小さな国です。ブータンでは、内務文化省の防災局というところで、主任技官補として働いています。

2番目の母国と思える今回の日本での滞在では、桜を見たり、日本の文化や食事をととても楽しみにしています。私の最初のキャリアとしては、2006年から2010年まで公共事業省で建築技師として働いていました。ここでは、地震に耐えられる様々な手法の建築について学び、私にとってとても貴重な経験となりました。これまで長きにわたり政府機関で働いているわけですが、災害管理、建築やデザイン、政策など多くの業務を経験してきました。先ほど日本を2番目の母国と申し上げましたが、実は2011年から2013年の間、横浜国立大学で研究活動をしていました。そこで学び経験したことは、今でもとても深く印象に残っています。今回、改めてADRCの客員研究員として2015年の1月から4月まで、防災に関する研究をできることになりました。具体的には、「日本とブータンにおける家屋の風水害被害に関する比較研究」について学びたいと思っています。



ブータンは、標高の高低差が大きく、地形的にも複雑で自然災害に脆弱な地域です。様々な自然災害が発生するわけですが、特に、2011年から2013年に頻発した風水害においては、たくさん

続き

の建築物や倒壊し、莫大な経済的損失がありました。そこで、私が今回取り組む研究テーマが、ブータンの経済を災害から守り、家屋や歴史的建築物の崩壊を防ぐなど、風水害から被害を軽減させることに貢献できればと強く願います。

●お知らせ**アジア防災会議2015が開催されました（速報）**

宮城県仙台市において第3回国連防災世界会議におけるイベントのひとつとしてアジア防災会議2015が日本国政府、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）及びADRCの主催により開催されました。みなさまの積極的なご参加によって、ACDR2015が成功裏に終了することができました。詳細は次号（265号）で報告させていただきます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。